ブウツ　知らないわけはありません。

ブウツのおかアさん　わけはなくっても先でそういったら？

ブウツ　そういったら……（こまる）

ブウツのおかアさん　なんともいえないでしょう？

ブウツ　……

ブウツのおかアさん　だから、およしなさい。——ね、だめだからおよし……

ブウツ　（間。——きゅうに）おかアさんはうそだと思っているんでしょう？

ブウツのおかアさん　うそだと？

ブウツ　ええ、魔法のテイブルかけのことをうそだと思っているんでしょう？

ブウツのおかアさん　いいえ、そんなことはありませんよ。

ブウツ　いいえ、そうです。——そうなんです。——それだからそんなことをいうんです。——おしいと思わないんです。……

ブウツのおかアさん　……

ブウツ　ほんとと思えばどうしたってとり返さなくっちゃアいけないと思います。——だれだってそう思わないものはないと思います。

ブウツのおかアさん　じゃあ、こうおし。——（窓の外を見て）きょうはもう日が暮れるからあしたにおし。

ブウツ　……

ブウツのおかアさん　今夜ゆっくりねて、あしたにおし。——ね、そうおし……

ブウツ　……（しぶしぶうなずく）

ブウツのおかアさん　御近所のかたのもってきてくれたパンがまだ残っている。——それを、いま、もってきて上げるからおたべ。——ね、それをたべて今夜は早くおやすみ……

ブウツ　……（うなずく）

ブウツのおかアさん、パンをとりに退場。

間。

ブウツ、テイブルのうえの紙きれになにか書きのこし、そっと、戸口から出て行く。間。

ブウツのおかアさん、いろいろもってかえって来る。

ブウツのおかアさん　ブウツや、おまちどう。——お腹がおすきだろう。——それはおいしいパンですよ。……（ブウツのいないのを知らず、そうしたことをいいながら、いろいろのものを、そこにおき、それからあかりをつける。——テイブルの上の紙きれをみつける。——おどろく）ブウ